

◆経済倶楽部講演会第4309回（11月15日）

金融緩和競争再燃の行方& 海外最新キャッシュレス動向

東短リサーチ社長
加藤 出

- * 好調な米国経済にも減速の気配
- * 北京、上海の最新都市レポート
- * 米中貿易戦争と大統領選の関係
- * マイナス金利への不満が薄い北欧
- * 日銀によるこれ以上の金融緩和は困難か
- * 賃金も物価も低空飛行が続く
- * 低金利が安売りを助長
- * 有効性薄れた金融政策の転換は可能か
- * 人口ピラミッドが示す社会保障の危機
- * デジタル革命が進む北欧の金融業界



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

今日は、すっかりおなじみでございますが、東短リサーチ社長の加藤さんにおいでいただきました。アメリカは連日、株価が最高値ということでございますが、一方ではいろんな不確定要因がございます、逆のリスクも高まっているという感じもいたします。今日はマーケットの側から見て、日本の政策、世界の情勢について加藤さんにお話を伺いたいと思います。それでは加藤さん、よろしくお願いいたします。（拍手）

好調な米国経済にも減速の気配

加藤 ご紹介いただきました東短リサーチの加藤です。本日もどうぞよろしくお願いいたし

ます。

日本銀行の金融緩和策も6年半以上続いています。今年の9月ぐらいには、黒田さんが10月にはさらに金融緩和をしようとする雰囲気もありましたけれども、幸いその後、グローバル経済の危機感がやや後退したということで、当面、日銀は動かないと思います。一方で米中貿易戦争の行方もあり、日銀の政策は今後どうなっていくのか、それから、9月に北欧を回ってきたが、向こうでのキャッシュレス、あるいは、その背景にあるデジタル革命の状況などを説明していきたいと思います。

まずはグローバル政治・経済情勢を概観してみたいと思います。製造業のPMIという統計は製造業の状況が速報的に割と早くわかるとい